



## ワシントン大学—東北大学アカデミックオープンスペースのワークショップで特別講演を行いました（2023/1/17）

テーマ：災害とヒューマン・レジリエンス：誰も取り残さないためにはどうしたらよいか  
会場：ワシントン大学スミス記念講堂

令和5年1月18日（水）に、東北大学・ワシントン大学の Academic Open Space の第2期の初めてのワークショップの一環として、災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）が特別講演を行いました。AOS に関する世界トップレベル災害科学研究拠点、世界展開プロジェクトにおいて「災害」をキーワードとして、東北大学とワシントン大学の間で幅広い連携を強め、共同研究と人材交流をすすめるというものです。

AOS 第1期においては、理工学系（物理学・化学・計算工学など）とする連携が築かれてきていましたが、災害医学研究部門においても災害における被災者のメンタルヘルスをはじめとする保健医療ニーズに関する共同研究が、奥山純子助教とワシントン大学看護学部との間で推進されていました。新型コロナウイルスパンデミックのために、相互訪問ができない状態が続いていましたが、第2期の活動においては、保健医療の分野でも連携を強めていくこととなりました。ワシントン大学の名誉教授で、現在は東北大学国際連携推進機構の大内二三夫特任教授のご高配により、ワシントン大学の医学部、看護学部、公衆衛生学、さらに都市建築の研究者がいくつかのミーティングを行い、ネットワーク形成と共同研究の推進にむけた情報交換を行いました。

江川教授は「災害とヒューマン・レジリエンス：誰も取り残さないためにはどうしたらよいか」と題し、由緒あるスミス記念講堂において、ワシントン大学の幅広い災害科学関係者・実務者・保健医療関係者に対して特別講演を行いました。「災害」をキーワードにすることにより、分野が異なっても、さまざまな分野横断的な共同研究のシーズが生まれることを期待しての特別講演です。ワシントン大学の医学部・看護学部が共同主催し、プロボスト室が後援する、全学的な講演会となりました。

江川教授は、災害リスクを形成するハザード、曝露、脆弱性、対応能力の関係性、災害リスクを減らすこと（防災）の科学的な方向性、レジリエンスの考え方と社会をつくる人々のレジリエンスの考え方を説明し、女性、子供と若者、障がい者、高齢者、移民、難民、貧困層など、災害時に弱い立場におかれる人々こそが防災の新たなステークホルダーとなれるような社会を形成することによって、誰一人取り残さない防災の可能性ができると主張しました。

ワシントン大学麻酔科の南立宏一郎教授に、医学・看護・公衆衛生を含む保健医療分野の代表者になっていただくこととなり、東北大学医学系研究科のそれぞれの専攻との連携を進めていくことにつながっています。

文責：江川新一（災害医療国際協力学分野）、パク・ヘジョン（災害医療情報学分野）  
（次頁へつづく）



伝統あるスミス記念講堂



講演する江川新一教授



Suzzallo Library, Smith Room

Speaker:

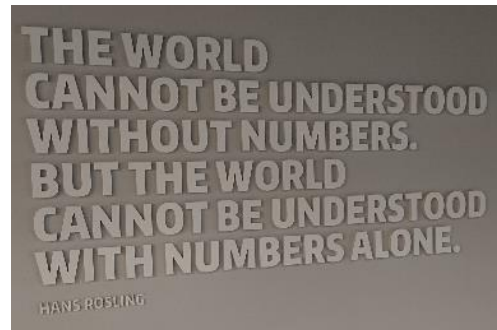
**SHINICHI EGAWA, MD, PhD, FACS, Professor**  
International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University

*Professor Shinichi Egawa is a generalist surgeon, Professor of International Cooperation for Disaster Medicine, and Assistant Director at the International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University. He participated in the headquarter of the Tohoku University Hospital during the 2011 Great East Japan Earthquake. His research major is about medical needs in disaster medicine, hospital business continuity plans, health workforce development, computer simulation of disaster medicine, and the development of a healthy and resilient community against disaster. He published 190 and more English articles and serves as Head of the program committee of WADEM 2025 Tokyo congress, Executive Editor for disaster medicine in Tohoku Journal of Experimental Medicine, Deputy Editor for Disaster Medicine and Public Health Preparedness, and the Advisory Working Group for the Project for Strengthening the ASEAN Regional Capacity on Disaster Health Management (ARCH Project).*



*Sponsored by the University of Washington-Tohoku University Academic Open Space (UW-TU-AOS), UW Department of Anesthesiology and Pain Medicine, UW Center for Global Health Nursing, and the UW Collaborative on Extreme Event Resilience (CEER)*

ワシントン大学によるポスター



ワシントン大学公衆衛生学専攻の壁に掲げられている Hans Rosling 教授（カロンリンスカ研究所、Factfulness の著者、1948-2017）の格言：「世界は数字なしに理解することはできない、しかし、世界は数字だけでは理解できない」グローバルヘルスはワシントン大学医学部の中でも大きな位置を占めています。